

ノジョラ、ミューラー・トゥルガウ、品種個性を活かしたワイン造り

FAEDO | TRENTINO ALTO ADIGE

Pojer e Sandri

ポイエレ・サンドリ



▲最初はイエルマンで醸造

1975年、フィオレンティーノ・サンドリがトレンティーノに葡萄畑を購入。醸造家、マリオ・ポイエレと共に立ち上げたのがポイエレ・サンドリ。当時は資金が足りず、イエルマンの醸造設備を使って醸造していました。

当初はファエド地区のみでしたが、近年、1つ山を越えたチェンブラ地区にも畑を購入。3kmしか離れていないのに全く違う土壌の2つの地区で、異なる品種を栽培し、品種特性に合った土壌要素が品種個性を、より引き立てる事に成功しています。

■ファエド地区

氷山に押し出された石灰が主体の堆積土壌とモルフィドと呼ばれる火山岩と粘土の混合土壌が混じり合った土壌。トレンティーノでは珍しく谷が南方向に開けていて日照量が多いが、夏はガルダ湖から冷たい風がファエドの谷に吹き込み、葡萄は焼けることがない。

【適合品種】ノジョラ、ミューラー・トゥルガウ、シャルドネ

■チェンブラ地区

チェンブラ地区は大きな谷になっていて標高が高く日照量が少なく冷涼。火山岩比率が高い粘土質。古代氷河の後退後、小川の働きによって形成された、丸みを帯びた小石を含んだ斑岩と砂質の土壌で濃い茶色のリッチな土壌も一部存在。

【適合品種】リースリング、ソーヴィニヨン・ブラン、ソラリス、セヴァール

▲PIWI 品種

PIWI（ピーヴィー）とはドイツ語で「pilzwiderstandsfähige Rebsorten = 真菌耐性付き葡萄品種」の略。ウドンコ病、バト病、灰色カビ病といった病気に耐性を持っています。また寒冷、酷暑、干ばつへの耐性も備えているので農薬に頼らず栽培が可能。ポイエレ・サンドリでは銅、硫黄さえも使わない完全自然栽培を実現しています。

完全自然栽培で育てられたソラリスとセヴァールは二酸化炭素を充満させたタンク内で破砕し、野生酵母のみで発酵。酵母が生きている状態で澱ごとボトリング。勿論、酸化防止剤も無添加なので、瓶内で発酵は続き、若干の発泡を得ています。

ポイエレ・サンドリが考える本当の意味での自然なワインこそがゼロ・インフィニートです。「農薬ゼロ」「酸化防止剤ゼロ」「酵母添加ゼロ」「酵素添加ゼロ」「糖分添加ゼロ」「フィルターゼロ」の葡萄 100%フリッツァンテ。自然なワインであっても破綻のない、欠陥のない綺麗な味わいを目指しました。

▲葡萄を水洗い？

彼等の大きな特徴の1つが収穫後の葡萄洗浄。空気上に存在する排気ガスや有害物質、畑に残存する銅等、人体に悪影響な物質を洗い流すのが目的。クエン酸を1%だけ加えたシャワーで、これらの有害物質を洗い流します。

『水で葡萄を洗うと有害物質を取り除くと同時に、野生酵母も50%減少してしまいます。しかし、野生酵母の天敵であるバクテリアは、それ以上に減少するので、結果的に野生酵母が活動しやすくなり、1時間後には野生酵母は1.5倍まで増える』

その後、葡萄は選果され、大型冷蔵庫内に移され6度で24時間冷やされます。葡萄は低温化で果汁に香を移し、同時にハサミムシ等、葡萄果実内に生息している昆虫が寒さで逃げ出すのです。

ノジョラのベルゴラ仕立てなど伝統を残しながら、銅、硫黄も最小限まで減らし、農薬、除草剤も使用しないなど、自然をリスペクトした仕事をしながらも、正確で破綻がなく、品種や土地の個性を重要視するポイエレ・サンドリ。この地域、最高の造り手です。



メルマガ&LINE
限定品予約や入港案内、試飲会やセミナー等を御案内！



生産者紹介カタログ&最新在庫表
実際に現地を訪れ、畑を歩き、カンティーナで触り、造り手と話して学んだ事、感じた事をまとめました。最新在庫表は、できるだけ毎日更新！

